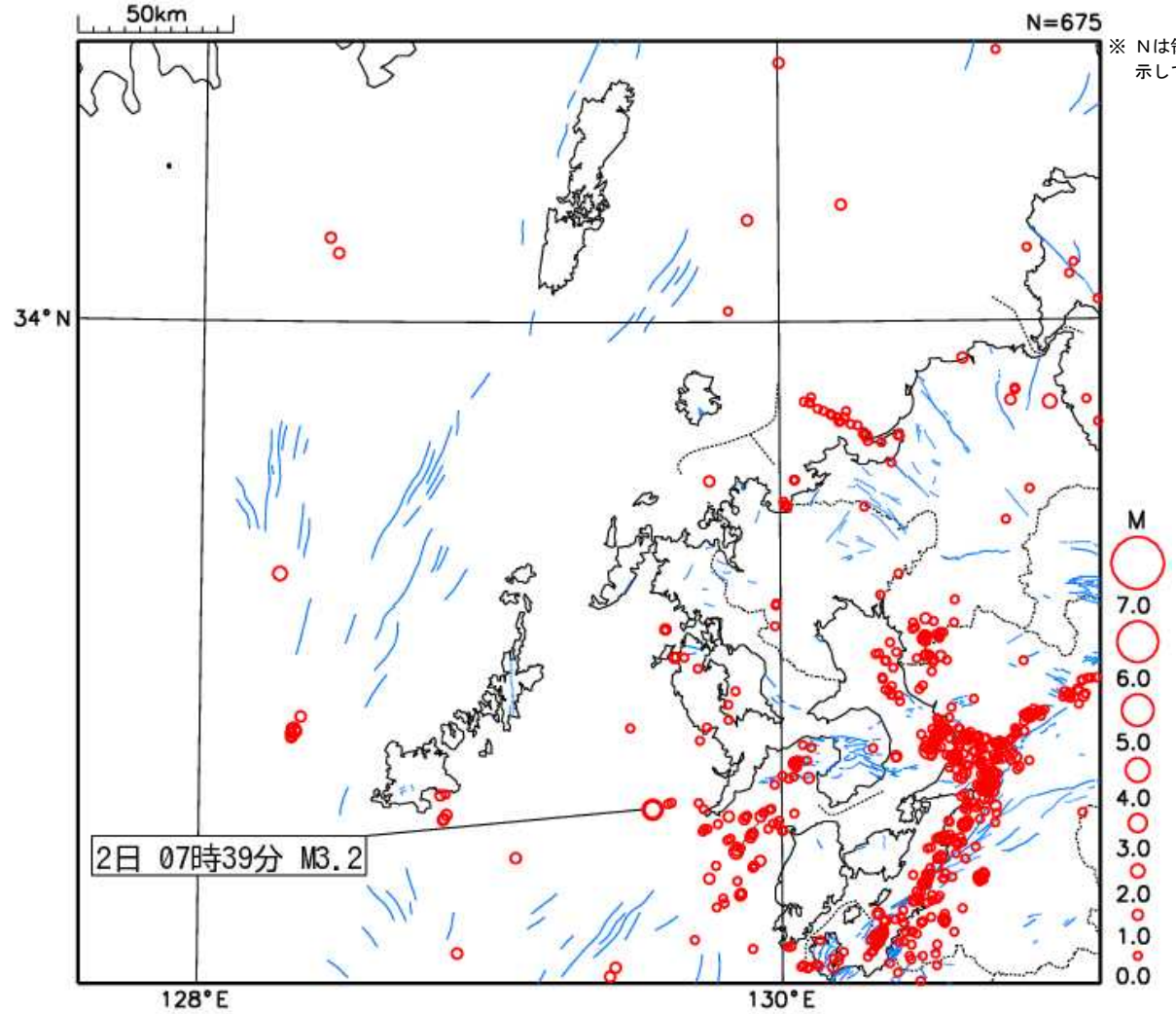
長崎県の地震活動概況（2021 年 11 月）

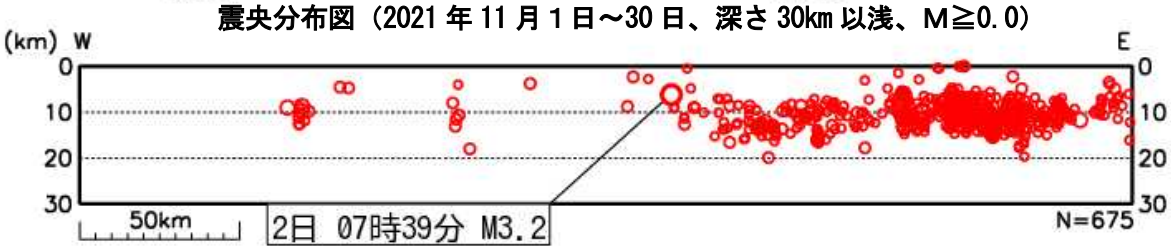
令和３年 12 月８日
長崎地方気象台

地震活動の概況（2021 年 11 月）

11 月に長崎県内で震度１以上を観測した地震は１回でした（10 月は１回）。詳細は２ページのとおりです。



震央分布図（2021 年 11 月１日～30 日、深さ 30km 以浅、M≧0.0）



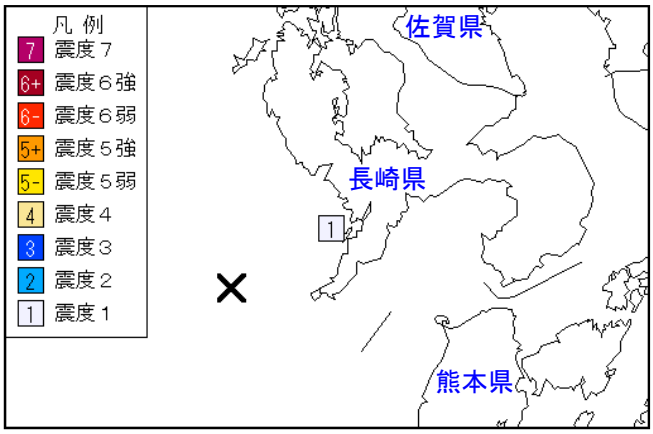
断面図（2021 年 11 月１日～30 日、深さ 30 km以浅、M≧0.0）
（震央分布図を南の方から見た断面図です）

※ 本資料の震央分布図の青色のラインは活断層を示す（活断層のデータは新編日本の活断層による）。
※ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS） の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
※ 2020 年９月１日から 10 月 23 日、2021 年１月９日から３月７日、及び４月 19 日から、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、これらの前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）がみられることがあります。

五島列島近海

２日 07 時 39 分に五島列島近海で発生した M3.2 の地震（深さ６km）により、長崎県では長崎市で震度１を観測しました（図１）。

今回の地震の震源付近（図２領域ａ）では、M２以上の地震が時々発生しており、2017 年２月 23 日に発生した M3.5 の地震（深さ７km）により、長崎県では諫早市、時津町で震度１を観測しています（図２、図３）。



11 月２日 07 時 39 分　M3.2
図１　震度分布図（観測点別、×：震央）

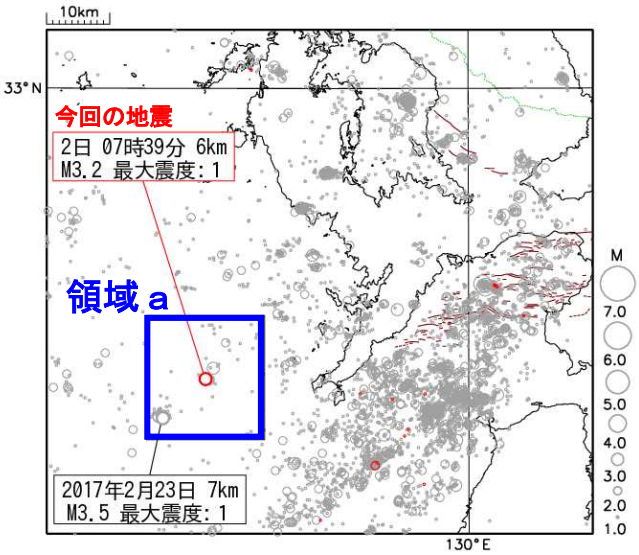


図２　震央分布図
(1997 年 10 月１日～2021 年 11 月 30 日 深さ０km～30km M≧1.0)
※2021 年 11 月１日以降の地震を赤で表示

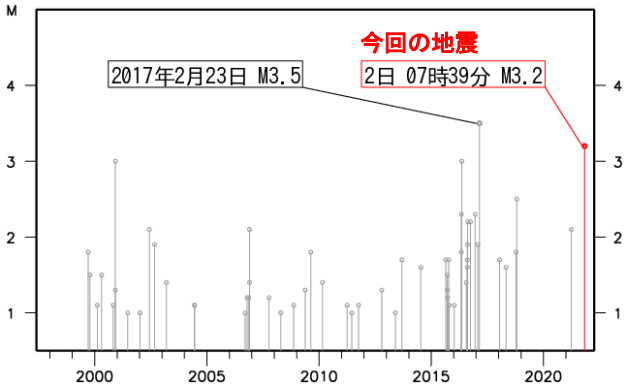


図３　図２領域ａ内の地震活動経過図
(1997 年 10 月１日～2021 年 11 月 30 日、M≧1.0)

長崎県内で震度１以上を観測した地震の表（11 月１日～30 日）

地震発生時刻 各地の震度	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
2021 年 11 月 02 日 07 時 39 分 震度　１ ： 長崎市伊王島町＊	五島列島近海	32°35.1’N	129°33.4’E	6km	M3.2

注）　震源要素（緯度・経度・深さ・M）は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。
＊を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

解　説　資　料
長崎地方気象台

大地震後の地震活動の見通し

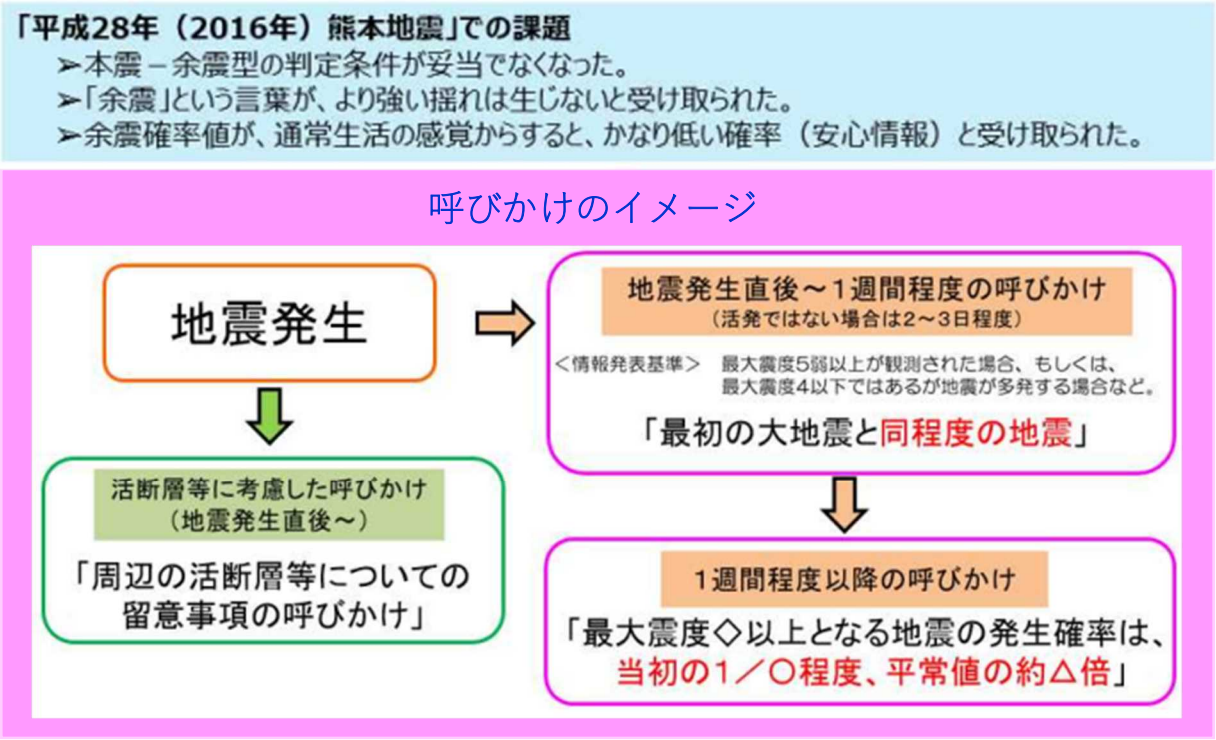
大きな地震の後には、多くの場合、その近くで引き続いて多数の地震が発生します。普段から大きな地震に備えることはもちろんですが、いざ大きな地震が発生した場合には、その後引き続いて発生する地震にも注意する必要があります。

気象庁は、最大震度５弱以上が観測された等の大地震が発生した場合に、約１～２時間後から、今後の地震活動の見通しや防災上注意すべきこと等について、報道発表資料で『防災上の留意事項』として発表しています。

地震活動の見通しは、「平成 28 年（2016 年）熊本地震」での課題を踏まえ、大きな地震の直後には、過去事例や地域特性に基づいた内容を、１週間程度以降は余震発生確率にもとづいた数値的見通しも付加した内容で防災上の呼びかけを行っています。

詳しくは次の気象庁ホームページをご覧ください。

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/aftershocks/index_whats_aftershock.html



＜大地震後の地震活動に対する防災上の留意事項（ポイント）＞

- １週間程度は、最初の大地震の規模と同程度の地震に注意することが基本となります。
- 特に、地震発生後２～３日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあることに留意しましょう。
- 付近に活断層がある、過去に同程度の規模の地震が続いて発生したことがあるなど、その地域の特徴に応じた呼びかけにも留意しましょう。
- 最初の地震の強い揺れにより、落石や崖崩れなどが起こりやすくなっている可能性があります。震度６弱など特に強い揺れのあった場合は、これらに加え、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性も高まっているおそれがあります。もう強い揺れを伴う地震は起きないとは決して思わず、その後の地震活動や降雨の状況に十分注意し、やむを得ない事情が無い限り危険な場所には立ち入らないなど、身の安全を守る行動を心がけるようにしましょう。